

ウェルウォーク通信

～鵜飼リハビリテーション病院様の取り組み紹介～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。今回、ウェルウォークの研究開発段階からご協力いただいています、鵜飼リハビリテーション病院様の取り組みについてご案内致します。

鵜飼リハビリテーション病院（愛知県名古屋市）

病床数：回りハ3病棟 計150床（患者層：脳血管疾患7割）
PT数：47名（WW操作可能PT：27名）

【ウェルウォークの運用状況】

導入時期：2015年（GEARより導入）
対象疾患：脳血管疾患、脊髄損傷
WW練習の頻度：2単位/日以上、週5日以上

【スタッフ教育について】

教育ラダー導入：対象 2年目・3年目（リーダーPT対応）
* スタッフのラダー状況に応じて、リーダーPTが適宜サポート・指導



ウェルウォーク運用における取り組みの紹介（詳細は次ページ）

年次の若いスタッフでもWW歩行練習が円滑に実施できるように標準化を図っています。

- ① 対象選定の標準化：対象者フローチャートを使用して、身体機能・認知機能も考慮した選定を共有。
WWの使用目的についてもスタッフ間で相違がないように努めています。
- ② 早期のStep2^{※1}達成の標準化：振り出し動作を安定させることを優先し、練習のフローチャートを作成。

※1 WW上での監視歩行の獲得

ウェルウォークを使用した高速度歩行練習事例の紹介

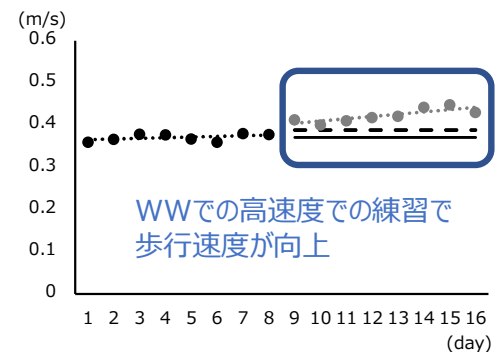
【高速度歩行練習の設定の特徴】

WWでのTM速度設定が可能な3.0km/h以下の方を対象とし、
麻痺側下肢の引っかかりがなく、安全に30秒以上歩行が可能であれば
0.05 km/hずつトレッドミル速度を漸増させます。（引っかかり時は漸減）

【事例紹介】

50歳代女性 発症より122日経過 右片麻痺（BRS：Ⅲ）
筋緊張亢進（CSI^{※2}：13点） 快適歩行速度0.36m/s ※2 Composite Spasticity Index
AB型シングルケースデザインで、10分/日の練習を8日ずつ実施（A期：トレッドミル、B期：ウェルウォーク）

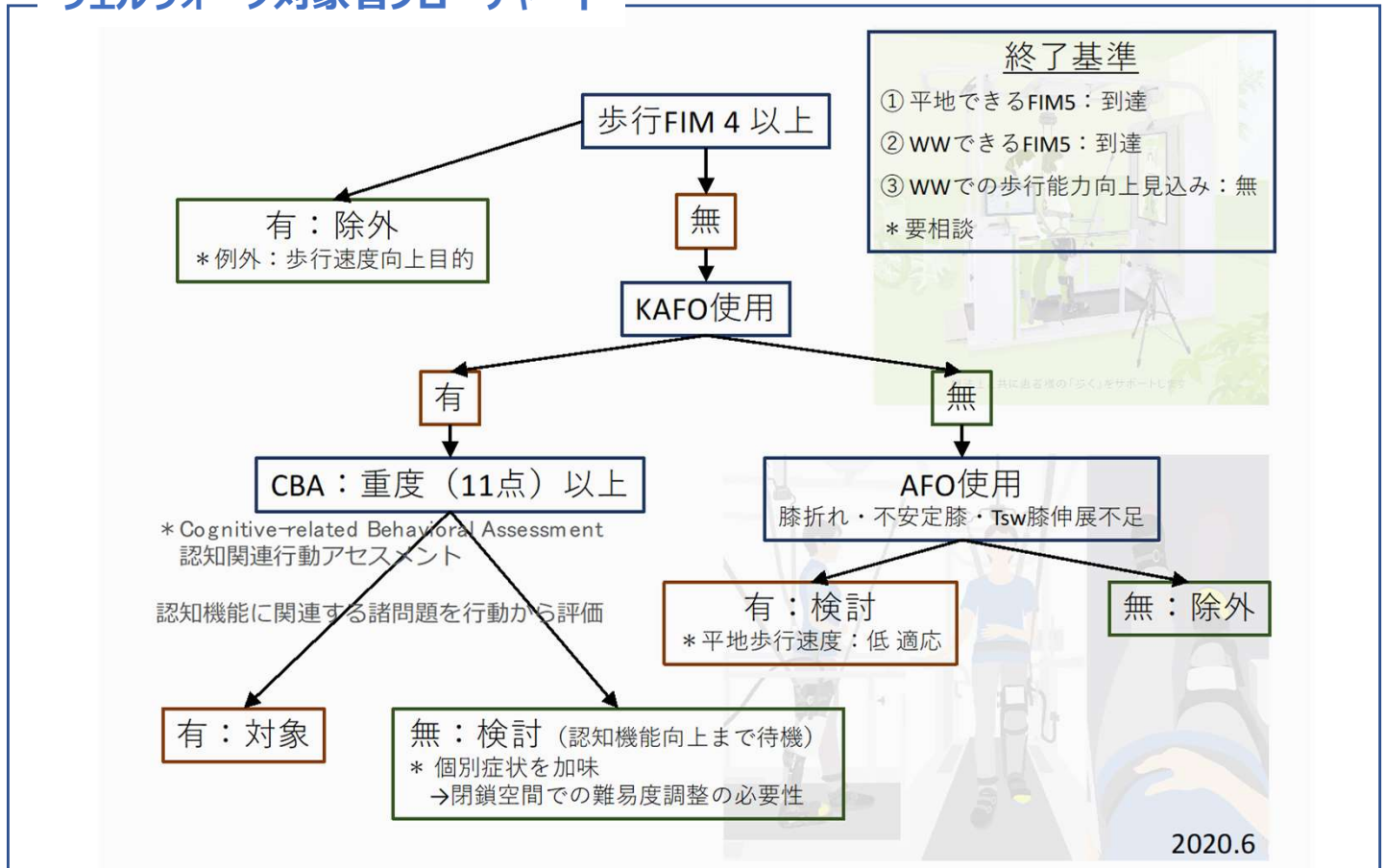
・脳卒中片麻痺患者に対する歩行補助ロボットを用いた高速度歩行練習の効果 - シングルケースデザインによる検証 -
山田（理学療法学34巻2号2023）として報告済み。（右上図）



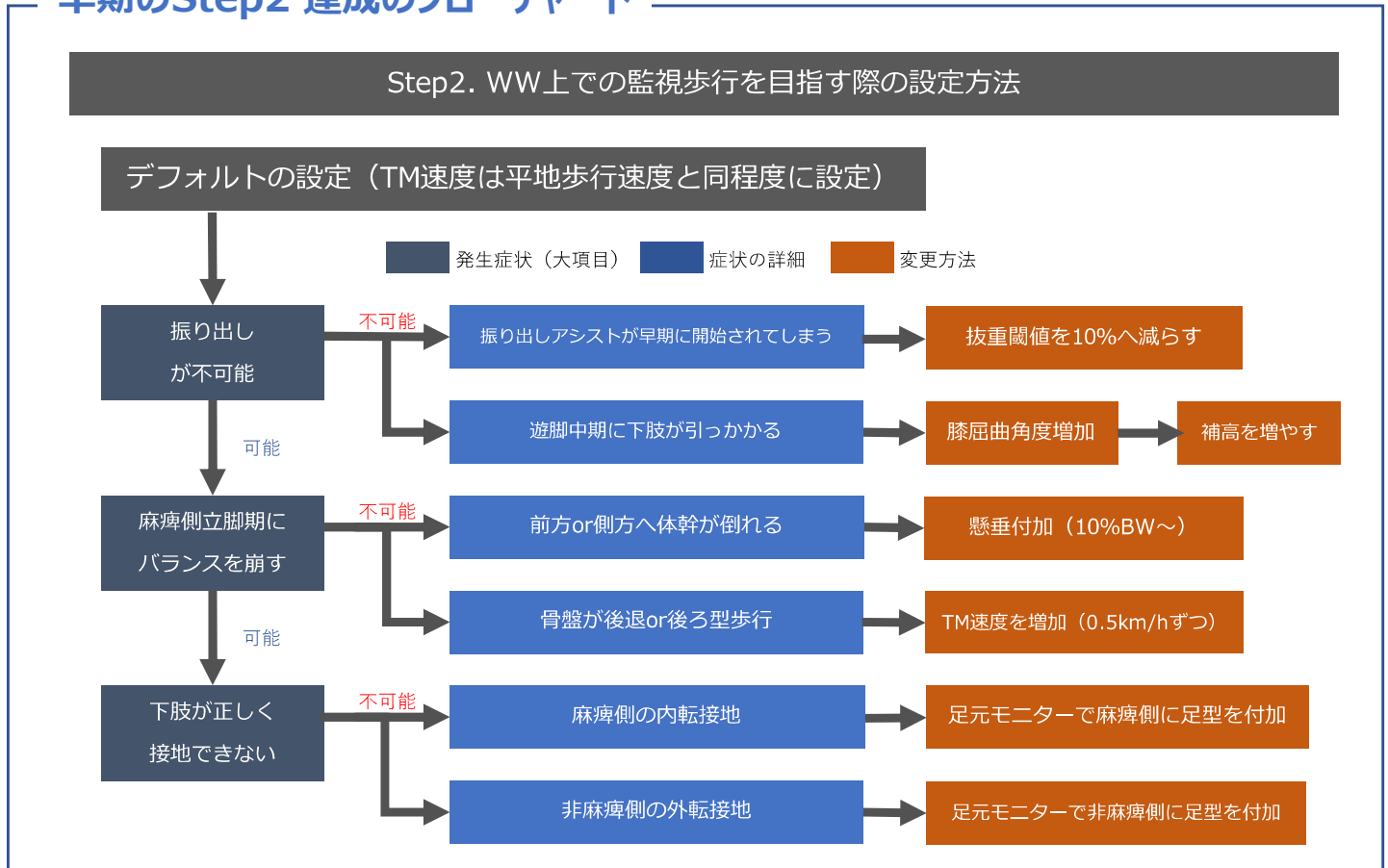
ウェルウォークに関する論文報告の紹介

- ・回復期脳卒中片麻痺患者に対する歩行練習アシストの適応に関する検討 瀬戸（義肢装具学会誌34巻2号2018）
- ・歩行自立が困難であった回復期脳卒中患者に対する歩行練習アシスト（GEAR）のADL能力向上の効果
- 後ろ向きコホート研究 - 牧（全日本病院協会雑誌31巻1号2020）
- ・重度脳卒中患者に対するウェルウォークWW-1000の使用が歩行時の時間因子に及ぼす影響
- シングルケースデザインでの検討 - 加藤（愛知県理学療法学会誌33巻1号2021）

ウェルウォーク対象者フローチャート



早期のStep2 達成のフローチャート



ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口<clinical-ww@mail.toyota.co.jp>